

# 形容詞と前置詞格目的語の語順について

—— 独辞書の用例の分析を基に (1) ——

人 見 明 宏

## 0. 序

ドイツ語の形容詞には、補足成分として目的語を支配するものがあるが、目的語が前置詞格目的語の場合は、[前置詞格目的語—形容詞] および [形容詞—前置詞格目的語] という 2 つの語順が可能である。この点に関して、これまで、以下に挙げた形容詞とその前置詞格目的語 (〈 〉 内に記載) について調査を行った。

abhängig 〈von + Dat.〉	frei 〈von + Dat.〉
angewiesen 〈auf + Akk.〉	froh 〈über + Akk.〉
ärgerlich 〈auf + Akk. / über + Akk.〉 <sup>1)</sup>	glücklich 〈über + Akk.〉
arm 〈an + Dat.〉	hungrig 〈nach + Dat.〉
aufmerksam 〈auf + Akk.〉	interessiert 〈an + Dat.〉
begierig 〈auf + Akk. / nach + Dat.〉	neidisch 〈auf + Akk.〉
beihilflich 〈bei + Dat.〉	neugierig 〈auf + Akk.〉
beliebt 〈bei + Dat.〉	reich 〈an + Dat.〉
böse 〈auf + Akk. / mit + Dat. / über + Akk.〉	scharf 〈auf + Akk.〉
dankbar 〈für + Akk.〉	schuld 〈an + Dat.〉
durstig 〈nach + Dat.〉	stolz 〈auf + Akk.〉
eifersüchtig 〈auf + Akk.〉	traurig 〈über + Akk.〉
einverstanden 〈mit + Dat.〉	verantwortlich 〈für + Akk.〉
empfindlich 〈gegen + Akk.〉	verliebt 〈in + Akk.〉
erstaunt 〈über + Akk.〉	zufrieden 〈mit + Dat.〉
fähig 〈zu + Dat.〉	zuständig 〈für + Akk.〉
fertig 〈mit + Dat.〉	

上記33語の形容詞を調査対象とし、人見(2015)では独辞典からの用例467例を、人見(2016)では文学作品157冊からの事例3011例を、人見(2017)では文学作品121冊からの事例1993例を分析・考察した。

本論文では、さらに調査対象とする形容詞を増やして、独辞典からの用例を分析・考察していく。

## 1. 調査対象とする形容詞

今回の調査では、前置詞格目的語を支配する形容詞のうち、以下のA～Eで始まる形容詞43語、前置詞格目的語との組み合わせで46件を対象とする。以下で、〈 〉内に記載したものが、前置詞とそれが支配する格である。

ähnlich 〈in + Dat.〉 <sup>2)</sup>	beschäftigt 〈mit + Dat.〉
angesehen 〈bei + Dat.〉	beschlagen 〈auf + Dat. / in + Dat.〉
aufgebracht 〈über + Akk.〉	besessen 〈von + Dat.〉
aufgelegt 〈zu + Dat.〉	besorgt 〈um + Akk.〉
aufgeschlossen 〈für + Akk.〉	beständig 〈gegen + Akk.〉
bang(e) 〈nach + Dat.〉	beteiligt 〈an + Dat.〉
bang(e) 〈um + Akk. / vor + Dat.〉	bewandert 〈auf + Dat. / in + Dat.〉
bedacht 〈auf + Akk.〉	bezeichnend 〈für + Akk.〉
bedeckt 〈mit + Dat.〉	blind 〈für + Akk. / gegen + Akk.〉
befähigt 〈für + Akk. / zu + Dat.〉	charakteristisch 〈für + Akk.〉
befangen 〈in + Dat.〉	eigen 〈bei + Dat. / in + Dat.〉
befreundet 〈mit + Dat.〉	eingenommen 〈für + Akk. / gegen + Akk.〉
begeistert 〈für + Akk. / von + Dat.〉	eingenommen 〈von + Dat.〉
behaftet 〈mit + Dat.〉	eingeschworen 〈auf + Akk.〉
bekannt 〈für + Akk.〉	einig 〈mit + Dat.〉 〈in + Dat. / über + Akk.〉
bekannt 〈mit + Dat.〉	eitel 〈auf + Akk.〉
benommen 〈von + Dat.〉	eklig 〈in + Dat.〉
bereit 〈für + Akk. / zu + Dat.〉	empfänglich 〈für + Akk.〉
berufen 〈zu + Dat.〉	
berühmt 〈für + Akk.〉	

entscheidend 〈für + Akk.〉	erfahren 〈auf + Dat. / in + Dat.〉
entschlossen 〈zu + Dat.〉	erfreut 〈über + Akk.〉
entsetzt 〈von + Dat. / über + Akk.〉	erhaben 〈über + Akk.〉
enttäuscht 〈von + Dat. / über + Akk.〉	erpicht 〈auf + Akk.〉

また、用例を収集した独独辞書は、人見 (2015) と同じく、Der kleine Wahrig. Wörterbuch der deutschen Sprache (2007) (以下、Wahrig)、Duden. Deutsch als Fremdsprache Standardwörterbuch (2010) (以下、Standardwörterbuch)、Dudenband 2.-Das Stilwörterbuch (2010) (以下、Stilwörterbuch)、Langenscheidt. Großwörterbuch Deutsch als Fremdsprache (2010) (以下、Langenscheidt) の4冊である。

## 2. 用例における形容詞とその前置詞格目的語の語順

以下では、独独辞書に記載されている用例における語順 [前置詞格目的語—形容詞] および [形容詞—前置詞格目的語] を分析する。そして、2.2. で全用例の語順をまとめる。

### 2.1. 用例における語順の分析

1. で挙げた形容詞のうち、用例数の多いもの、複数の統語機能で用いられているもの、[前置詞格目的語—形容詞] および [形容詞—前置詞格目的語] の両語順の用例数が拮抗しているものなどを中心にいくつかを取り上げ、形容詞とその前置詞格目的語に関して、独独辞書に記載されている用例における語順を分析する<sup>3)</sup>。

#### 2.1.1. *bedacht* 〈auf + Akk.〉

*bedacht* 〈auf + Akk.〉の用例は全30例あり、そのすべてが主語の述語内容語として用いられている。また、30例すべてが [前置詞格目的語—形容詞] の語順である。以下のように、前置詞句内の名詞 (句) は、名詞のみのもの、付加語を伴ったかなり長い名詞句などである。また、後続する *zu* 不定詞句の相関詞 *darauf* も用いられている。

- (1) *auf Distanz bedacht sein* (Stilwörterbuch S.244)

- (2) *auf das leibliche Wohl der Gäste* **bedacht** sein  
(Standardwörterbuch S.603)
- (3) Er war stets *darauf* **bedacht**, einen guten Eindruck zu machen.  
(Langenscheidt S.180)

### 2.1.2. *bedeckt* 〈mit + Dat.〉

*bedeckt* 〈mit + Dat.〉の用例は全36例あり、そのうち *bedeckt* が述語内容語である例は34例で、そのすべてが主語の述語内容語である。また、その他が2例である。

まず、主語の述語内容語としての用例では、34例すべてが〔前置詞格目的語—形容詞〕の語順である。以下のように、前置詞句内の名詞(句)は、名詞のみもの、冠詞類と名詞、付加語を伴ったかなり長い名詞句などである。

- (4) Er war am ganzen Körper *mit Narben* **bedeckt**.<sup>4)</sup> (Stilwörterbuch S.157)
- (5) Der Teich ist *mit einem Ölfilm* **bedeckt**. (Langenscheidt S.818)
- (6) Das Bett war *mit einem kostbaren Überwurf* **bedeckt**.  
(Standardwörterbuch S.962)

また、用例で動詞が用いられておらず、*bedeckt* の統語機能が不明なもの2例あるが、どちらも〔前置詞格目的語—形容詞〕の語順である。

- (7) *mit Reif* **bedeckt** (Wahrig S.764)
- (8) *mit Staub* **bedeckt** (ebd. S.896)

以上、*bedeckt* 〈mit + Dat.〉の語順は、36例すべてが〔前置詞格目的語—形容詞〕である。

### 2.1.3. *bekannt* 〈mit + Dat.〉

*bekannt* 〈mit + Dat.〉の用例は全24例あり、そのすべてにおいて *bekannt* は述語内容語(主語の述語内容語11例、目的語の述語内容語13例)である。

まず、主語の述語内容語としての用例は、10例が〔前置詞格目的語—形容詞〕の語順である。以下のように、前置詞句内の名詞(句)は、冠詞

類と名詞、付加語を伴ったかなり長い名詞句、代名詞などであり、また *miteinander* も用いられている。

- (9) Ich bin *mit seinen Problemen* seit Langem **bekannt**.  
(Stilwörterbuch S.171)
- (10) *mit dem Inhalt eines Schreibens* **bekannt** sein. (Langenscheidt S.194)
- (11) Ich bin *mit ihr* **bekannt**. (Standardwörterbuch S.195)
- (12) Sie sind gestern *miteinander* **bekannt** geworden. (Stilwörterbuch S.171)

一方、[形容詞—前置詞格目的語] の語順は、以下の 1 例のみである。

- (13) Wir sind gut **bekannt** (*miteinander*). (Wahrig S.166)

次に、目的語の述語内容語としての用例は、13例すべてが [前置詞格目的語—形容詞] の語順である。動詞は *machen* が用いられており、前置詞句内の名詞 (句) は、主語の述語内容語の場合と同様、冠詞類を伴った名詞、代名詞などであり、また *miteinander* も用いられている。

- (14) Darf ich Sie *mit meiner Frau* **bekannt** machen? (Langenscheidt S.194)
- (15) Ich werde dich *mit ihr* **bekannt** machen. (Standardwörterbuch S.195)
- (16) Ich werde euch *miteinander* **bekannt** machen. (Stilwörterbuch S.171)

以上、*bekannt* 〈mit + Dat.〉 の全24用例のうち、[前置詞格目的語—形容詞] の語順が23例であり、[形容詞—前置詞格目的語] の語順は1例である。

#### 2.1.4. *bekannt* 〈für + Akk.〉

*bekannt* 〈für + Akk.〉 の用例は全15例あり、そのすべてにおいて *bekannt* は主語の述語内容語である。

語順に関しては、2.1.3. の *bekannt* 〈mit + Dat.〉 とは異なり、[前置詞格目的語—形容詞] と [形容詞—前置詞格目的語] の両者が混在している。まず、[前置詞格目的語—形容詞] は8例あり、前置詞句には、前置詞と名詞句の他に、後続する副文の相関詞 *dafür* も用いられている。

(17) München ist *für seine Biergärten* **bekannt**. (Langenscheidt S.225)

(18) *dafür* **bekannt** sein, dass ... (Stilwörterbuch S.227)

一方、[形容詞—前置詞格目的語] は7例あり、前置詞句には、[前置詞格目的語—形容詞] の場合と同様に、前置詞と名詞句の他に、後続する副文の相関詞 *dafür* も用いられている。

(19) Das Hotel ist **bekannt für seinen guten Service**. (Stilwörterbuch S.789)

(20) Sie ist **bekannt dafür**, dass sie geizig ist. (ebd. S.170)

以上、**bekannt** 〈für + Akk.〉の全15用例のうち、[前置詞格目的語—形容詞] の語順が8例であり、[形容詞—前置詞格目的語] の語順は7例である。

**bekannt** 〈mit + Dat.〉では、[前置詞格目的語—形容詞] の語順が大勢を占めているのに対して、**bekannt** 〈für + Akk.〉では、両語順がほぼ拮抗している。

### 2.1.5. **bereit** 〈für + Akk. / zu + Dat.〉

**bereit** 〈für + Akk. / zu + Dat.〉の用例は全40例あり、そのうち **bereit** が述語内容語である例は37例（主語の述語内容語：30例、目的語の述語内容語：7例）、その他3例である<sup>5)</sup>。

まず、主語の述語内容語としての用例では、28例が [前置詞格目的語—形容詞] の語順である。以下のように、前置詞句内の名詞句は、(前置詞と融合した) 冠詞類と名詞や付加語を伴ったかなり長い名詞句もある。また、前置詞と代名詞の融合形 **dazu** が用いられているものもある。

(21) Wir sind / Der Zug ist *zur Abfahrt* **bereit**. (Wahrig S.172)

(22) Die Opposition ist *zu einer punktuellen Zusammenarbeit mit der Regierung* **durchaus bereit**. (Standardwörterbuch S.735)

(23) Ich bin *dazu* nicht **bereit**. (Stilwörterbuch S.177)

一方、[形容詞—前置詞格目的語] の語順は、以下の2例である。前置詞句内の名詞句は、共に (前置詞と融合した) 冠詞類と名詞である。

- (24) Wir sind **bereit zur Abfahrt**. (Langenscheidt S.202)  
(25) Er ist **bereit zum Verzicht**. (Stilwörterbuch S. S.977)

このうち、(21)と(24)では、同一の前置詞句 (zur Abfahrt) が用いられているにもかかわらず、語順が異なっている。

次に、目的語の述語内容語としての用法では、6例が〔前置詞格目的語—形容詞〕の語順である。動詞は、以下のように、*erklären* および *machen* である。

- (26) Er erklärte sich *zur Übernahme der Kosten* **bereit**.  
(Langenscheidt S.1004)  
(27) Machen Sie sich bitte (*für den Auftritt*) **bereit**. (ebd. S.202)  
(28) Die Bergleute machen sich *zur Einfahrt* **bereit**. (Wahrig S.276)

一方、目的語の述語内容語で、〔形容詞—前置詞格目的語〕の語順は、以下の1例のみである。

- (29) Auf langes Zureden hin erklärte er sich endlich **bereit dazu**.  
(Wahrig S.1116)

最後に、その他として、*bereit* が副詞的規定語として用いられている用例が3例あるが、その3例とも〔前置詞格目的語—形容詞〕の語順である。以下に、2例を挙げる。

- (30) Ihre Bestellung liegt *zum Abholen* **bereit**. (Langenscheidt S.213)  
(31) Das Gewebe liegt in verschiedenen Schnitten *für das Mikroskop* **bereit**.  
(Wahrig S.831)

以上、*bereit* 〈für + Akk. / zu + Dat.〉の全40用例のうち、〔前置詞格目的語—形容詞〕の語順が37例であり、〔形容詞—前置詞格目的語〕の語順は3例である。

### 2.1.6. *besessen* 〈von + Dat.〉

*besessen* 〈von + Dat.〉の用例は全32例あり、そのうち *besessen* が述語内容語である例は31例で、そのすべてが主語の述語内容語である。また、その他が1例である。

まず、主語の述語内容語としての用例では、31例すべてが〔前置詞格目的語—形容詞〕の語順である。以下のように、前置詞句内の名詞(句)は、名詞のみもの、冠詞類と名詞、付加語を伴ったかなり長い名詞句などである。

- (32) Sie ist *von Ehrgeiz besessen*. (Standardwörterbuch S.296)
- (33) Sie war *von ihrer Arbeit besessen*. (Wahrig S.178)
- (34) *von der Leidenschaft zum Theater besessen* sein (Stilwörterbuch S.559)

また、用例で動詞が用いられておらず、*besessen* の統語機能が不明な1例も〔前置詞格目的語—形容詞〕の語順である。

- (35) *vom Teufel besessen* (Wahrig S.936)

以上、*besessen* 〈von + Dat.〉の語順は、32例すべてが〔前置詞格目的語—形容詞〕である。

### 2.1.7. *beständig* 〈gegen + Akk.〉

今回調査した形容詞で、得られた用例すべてが〔形容詞—前置詞格目的語〕の語順である形容詞のうち、最も用例数が多かったのが *beständig* 〈gegen + Akk.〉の6例である。この6例はすべて、*beständig* が主語の述語内容語として用いられたものである。以下のように、前置詞が支配している名詞は、すべて名詞単独のものである。

- (36) Dieses Material ist *beständig gegen Hitze*. (Stilwörterbuch S.187)
- (37) Platin ist *beständig gegen Säure*. (Langenscheidt S.212)
- (38) Der Stoff ist sehr *beständig gegen Witterungseinflüsse*. (Wahrig S.180)

### 2.1.8. **einig** 〈mit + Dat.〉 〈in + Dat. / über + Akk.〉

**einig** は前置詞格目的語として mit + Dat. および / または in + Dat. または über + Akk. を支配する。**einig** 〈mit + Dat.〉 〈in + Dat. / über + Akk.〉 の用例は全18例であり、そのすべてにおいて **einig** は主語の述語内容語として用いられており、語順もすべて [前置詞格目的語—形容詞] である。

以下に、〈mit + Dat.〉のみが生じた用例、〈in + Dat. / über + Akk.〉が生じた用例、および 〈mit + Dat.〉 と 〈in + Dat. / über + Akk.〉の双方が生じた用例を挙げる。

- (39) Er ist heute *mit sich selbst* nicht **einig**. (Wahrig S.280)
- (40) sich *in allen Punkten* **einig** sein (Langenscheidt S.874)
- (41) Wir sind uns noch nicht *über die Form* **einig**. (Wahrig S.280)
- (42) Er ist sich *mit ihr über das Projekt* **einig**. (Langenscheidt S.328)
- (43) Wir sind uns *mit ihm darin* **einig**, dass er die Reparaturkosten übernimmt. (Standardwörterbuch S.306)

### 2.1.9. **empfänglich** 〈für + Akk.〉

**empfänglich** 〈für + Akk.〉は、[前置詞格目的語—形容詞] の用例数と [形容詞—前置詞格目的語] の用例数がほぼ拮抗している一例である。14例すべてにおいて、**empfänglich** は主語の述語内容語として用いられており、このうち、6例が [前置詞格目的語—形容詞] の語順、8例が [形容詞—前置詞格目的語] である。以下のように、前置詞句内の名詞が同一のものでも、両語順をとっている。

- (44) *für Lob* **empfänglich** sein (Stilwörterbuch S.289)
- (45) **empfänglich** *für Lob* sein (Langenscheidt S.345)
- (46) *für Schmeicheleien* **empfänglich** sein (Stilwörterbuch S.289)
- (47) **empfänglich** *für Schmeicheleien* sein (Langenscheidt S.345)

### 2.1.10. **enttäuscht** 〈von + Dat. / über + Akk.〉

**enttäuscht** 〈von + Dat. / über + Akk.〉も、[前置詞格目的語—形容詞] の用例数と [形容詞—前置詞格目的語] の用例数がほぼ拮抗している一例である。9例すべてにおいて、**enttäuscht** は述語内容語（主語の述語内容語

8例、目的語の述語内容語1例)として用いられている。

まず、主語の述語内容語としての用例では、4例が[前置詞格目的語—形容詞]の語順である。以下のように、前置詞句内の名詞句は、冠詞類と名詞や代名詞である。

(48) Die Zuschauer waren *von dem Fußballspiel* **enttäuscht**.

(Standardwörterbuch S.1142)

(49) Ich war *von ihm* **enttäuscht**. (Wahrig S.306)

一方、[形容詞—前置詞格目的語]の語順をとる用例も4例である。以下のように、前置詞句内の名詞句は、冠詞類と名詞や代名詞であり、また、前置詞と代名詞の融合形 *davon* が用いられている用例もある。

(50) Man war **enttäuscht über ihr**. (Stilwörterbuch S.298)

(51) Man war **enttäuscht von ihrem Verhalten**. (ebd. S.298)

(52) Lies das Buch besser nicht, du bist bestimmt **enttäuscht davon**.

(Wahrig S.306)

次に、*enttäuscht* が目的語の述語内容語として用いられているのは、以下の1例である。

(53) Sie zeigte sich *darüber* sehr **enttäuscht**. (Standardwörterbuch S.1115)

以上、*enttäuscht* 〈*von* + Dat. / *über* + Akk.〉の全9用例のうち、[前置詞格目的語—形容詞]の語順が5例であり、[形容詞—前置詞格目的語]の語順は4例である。

## 2.2. 用例における語順のまとめ

本論文で調査対象とした形容詞のうち、2.1. で取り上げなかった形容詞も含め、形容詞と前置詞格目的語の語順についてまとめたものが以下の表1である<sup>6)</sup>。

形容詞と前置詞格目的語の語順について

表 1	[前目一形]				[形一前目]				合計
	主述	目述	他	%	主述	目述	他	%	
angesehen 〈bei〉	2			100.0%				0.0%	2
aufgebracht 〈über〉	1			50.0%	1			50.0%	2
aufgelegt 〈zu〉	13			100.0%				0.0%	13
aufgeschlossen 〈für〉	3			60.0%	2			40.0%	5
bang(e) 〈nach〉				0.0%	1			100.0%	1
bang(e) 〈um / vor〉				0.0%	3			100.0%	3
bedacht 〈auf〉	30			100.0%				0.0%	30
bedeckt 〈mit〉	34		2	100.0%				0.0%	36
befangen 〈in〉	11			100.0%				0.0%	11
befreundet 〈mit〉	5			100.0%				0.0%	5
begeistert 〈für / von〉	7			100.0%				0.0%	7
behaftet 〈mit〉	10		3	100.0%				0.0%	13
bekannt 〈für〉	8			53.3%	7			46.7%	15
bekannt 〈mit〉	10	13		95.8%	1			4.2%	24
benommen 〈von〉	8			100.0%				0.0%	8
bereit 〈für / zu〉	28	6	3	92.5%	2	1		7.5%	40
berufen 〈zu〉	3	7		100.0%				0.0%	10
berühmt 〈für〉	3			100.0%				0.0%	3
beschäftigt 〈mit〉	20			100.0%				0.0%	20
beschlagen 〈auf / in〉	4			100.0%				0.0%	4
besessen 〈von〉	31		1	100.0%				0.0%	32
besorgt 〈um〉	11			100.0%				0.0%	11
beständig 〈gegen〉				0.0%	6			100.0%	6
beteiligt 〈an〉	26			100.0%				0.0%	26
bewandert 〈auf / in〉	7			100.0%				0.0%	7
bezeichnend 〈für〉				0.0%	5			100.0%	5
blind 〈für / gegen〉				0.0%	2			100.0%	2
charakteristisch 〈für〉	1			25.0%	3			75.0%	4
eigen 〈bei / in〉	5			100.0%				0.0%	5
eingenommen 〈für / gegen〉	1			100.0%				0.0%	1
eingenommen 〈von〉	2			100.0%				0.0%	2
einig 〈mit〉 〈in / über〉	18			100.0%				0.0%	18
empfänglich 〈für〉	6			42.9%	8			57.1%	14
entschlossen 〈zu〉	2			66.7%	1			33.3%	3

entsetzt <von / über>				0.0%	1			100.0%	1
enttäuscht <von / über>	4	1		55.6%	4			44.4%	9
erfahren <auf / in>	3			75.0%	1			25.0%	4
erfreut <über>	1	1		66.7%	1			33.3%	3
erhaben <über>	22	2		100.0%				0.0%	24
erpicht <auf>	11	2		81.3%	3			18.8%	16
合計	351	32	9	88.1%	52	1	0	11.9%	445

### 3. 分析結果の考察・検証

人見 (2015) では、形容詞とその前置詞格目的語の基本語順は [前置詞格目的語—形容詞] であると結論づけた。そして、語順 [形容詞—前置詞格目的語] は、この基本語順から作られた実現形であり、この語順をとる要因として、形容詞の音節数と形容詞の形態を指摘した。すなわち、音節数の多い形容詞は基本語順 [前置詞格目的語—形容詞] を、音節数の少ない形容詞は実現形で [形容詞—前置詞格目的語] の語順をとる傾向が高い。またその形態が動詞の過去分詞と同形である形容詞は基本語順 [前置詞格目的語—形容詞] をとる傾向が高いというものである。この点に関して、今回の分析の結果、得られたデータをもとに、形容詞とその前置詞格目的語の語順を決定する要因について、考察・検証する。

まず、今回の分析結果から、語順 [前置詞格目的語—形容詞] をとる傾向が高い形容詞から低い形容詞に並び替えた結果が、以下の表2である。

表2	[前目—形]				[形—前目]				合計
	主述	目述	他	%	主述	目述	他	%	
angesehen <bei>	2			100.0%				0.0%	2
aufgelegt <zu>	13			100.0%				0.0%	13
bedacht <auf>	30			100.0%				0.0%	30
bedeckt <mit>	34		2	100.0%				0.0%	36
befangen <in>	11			100.0%				0.0%	11
befreundet <mit>	5			100.0%				0.0%	5
begeistert <für / von>	7			100.0%				0.0%	7
behaftet <mit>	10		3	100.0%				0.0%	13
benommen <von>	8			100.0%				0.0%	8

形容詞と前置詞格目的語の語順について

berufen 〈zu〉	3	7		100.0%				0.0%	10
berühmt 〈für〉	3			100.0%				0.0%	3
beschäftigt 〈mit〉	20			100.0%				0.0%	20
beschlagen 〈auf / in〉	4			100.0%				0.0%	4
besessen 〈von〉	31		1	100.0%				0.0%	32
besorgt 〈um〉	11			100.0%				0.0%	11
beteiligt 〈an〉	26			100.0%				0.0%	26
bewandert 〈auf / in〉	7			100.0%				0.0%	7
eigen 〈bei / in〉	5			100.0%				0.0%	5
eingonnen 〈für / gegen〉	1			100.0%				0.0%	1
eingonnen 〈von〉	2			100.0%				0.0%	2
einig 〈mit〉 〈in / über〉	18			100.0%				0.0%	18
erhaben 〈über〉	22	2		100.0%				0.0%	24
bekannt 〈mit〉	10	13		95.8%	1			4.2%	24
bereit 〈für / zu〉	28	6	3	92.5%	2	1		7.5%	40
erpicht 〈auf〉	11	2		81.3%	3			18.8%	16
erfahren 〈auf / in〉	3			75.0%	1			25.0%	4
entschlossen 〈zu〉	2			66.7%	1			33.3%	3
erfreut 〈über〉	1	1		66.7%	1			33.3%	3
aufgeschlossen 〈für〉	3			60.0%	2			40.0%	5
enttäuscht 〈von / über〉	4	1		55.6%	4			44.4%	9
bekannt 〈für〉	8			53.3%	7			46.7%	15
aufgebracht 〈über〉	1			50.0%	1			50.0%	2
empänglich 〈für〉	6			42.9%	8			57.1%	14
charakteristisch 〈für〉	1			25.0%	3			75.0%	4
bang(e) 〈nach〉				0.0%	1			100.0%	1
bang(e) 〈um / vor〉				0.0%	3			100.0%	3
beständig 〈gegen〉				0.0%	6			100.0%	6
bezeichnend 〈für〉				0.0%	5			100.0%	5
blind 〈für / gegen〉				0.0%	2			100.0%	2
entsetzt 〈von / über〉				0.0%	1			100.0%	1
合計	351	32	9	88.1%	52	1	0	11.9%	445

まず音節数に関しては、[前置詞格目的語—形容詞]の語順をとる傾向が100%であった形容詞は、21語（前置詞格目的語との組み合わせで23件）ある。そのうち、4音節の形容詞が2語（3件）、3音節が13語（13件）、

2音節が6語(6件)であり、その平均音節数は2.9音節である<sup>7)</sup>。一方、[形容詞—前置詞格目的語]の語順をとる傾向が100%であった形容詞は5語(6件)である。そのうち3音節の形容詞が2語(2件)、2音節が1語(1件)、1.5音節<sup>8)</sup>が1語(2件)、1音節が1語(1件)であり、その平均音節数は、2.0音節である。

次に形容詞の形態に関しては、angesehen、aufgebracht、aufgelegt、aufgeschlossen、bedacht、bedeckt、befreundet、begeistert、bekannt〈für + Akk.〉、bekannt〈mit + Dat.〉、benommen、berufen、beschäftigt、beschlagen、besessen、besorgt、beteiligt、bewandert、eingenommen〈für + Akk. / gegen + Akk.〉、eingenommen〈von + Dat.〉、entschlossen、entsetzt、enttäuscht、erfahren、erfreutの23語(25件)が過去分詞と同形、befangen、behaftet、berühmt、erpichtの4語(4件)が過去分詞を連想させる語形である<sup>9)</sup>。これら27語(29件)のうち、angesehen、aufgelegt、bedacht、bedeckt、befangen、befreundet、begeistert、behaftet、benommen、berufen、berühmt、beschäftigt、beschlagen、besessen、besorgt、beteiligt、bewandert、eingenommen〈für / gegen〉、eingenommen〈von〉の18語(19件)は、[前置詞格目的語—形容詞]語順をとる傾向が100%であった。これは、また、[前置詞格目的語—形容詞]の語順をとる傾向が100%であった形容詞21語(23件)のうち、件数で82.6%である。その一方で、[形容詞—前置詞格目的語]の語順をとる傾向が100%であった形容詞5語(6件)のうち、過去分詞と同形の語はentsetzt1語(1件)のみであり、件数で16.7%である。過去分詞と同形またはそれを連想させる語形の形容詞で、entsetztに次いで[前置詞格目的語—形容詞]語順をとる傾向が低かった形容詞はaufgebrachtであったが、aufgebrachtでさえ、[前置詞格目的語—形容詞]語順をとる傾向は50.0%であった。

以上、今回調査対象とした形容詞とその前置詞格目的語においても、形容詞の音節数・形態が、形容詞と前置詞格目的語の語順を決定する一要因であることが証明された。

#### 4. 結語

本論文では、前置詞格目的語を支配する形容詞43語(前置詞格目的語との組み合わせで46件)を調査対象とし、独辞書から得られた用例で、

その語順について分析した。そして、形容詞とその前置詞格目的語の語順を決定する要因について考察し、検証した。その結果、形容詞の音節数・形態が、形容詞と前置詞格目的語の語順を決定する一要因であることが、今回調査対象とした形容詞と前置詞格目的語においても証明された。

しかし一方で、独独辞書からの用例では、分析対象となる例の数がまだ限られており、語順決定の要因を解明する際の精度を高めるためには、より多くのデータを収集・分析する必要がある。今後は、さらに対象とする形容詞の数を増やし、また小説などから多数の実例を収集して調査する必要があると考える。

## 注

- 1) / (スラッシュ) はその前後の要素が交換可能であることを表す。すなわち、*ärgerlich* は前置詞格目的語として *auf* と 4 格の名詞句または *über* と 4 格の名詞句を支配する。
- 2) *ähnlich* は前置詞格目的語のほかに、3 格目的語も支配する。
- 3) *zu etw. aufgelegt sein* のように、前置詞句内の名詞句が具体的な名詞・代名詞などではなく *jemand* や *etwas* の用例は除外している。*in einem Irrtum, einer Illusion, einer Täuschung befangen sein* (Wahrig (2007) S.155) など、形容詞が支配している前置詞句内の名詞などが複数記載されている用例は、複数の用例 (*in einem Irrtum befangen sein*、*in einer Illusion befangen sein* および *in einer Täuschung befangen sein*) として扱っている。同一の用例でも異なる辞書で記載されている場合、また同一の辞書でも異なる項目・ページで記載されている場合は、複数の用例としている。辞書ではしばしば見出し語が頭文字などで表記されているが、これは全書している。また完全な文でも、文頭の語が小文字で表記されている場合は、大文字で記載するなど、文としての表記に従っている。
- 4) *bedeckt* は、本来、動詞 *bedecken* の過去分詞である。そのため、*mit et<sup>3</sup> bedeckt sein* を他動詞 *bedecken* の状態受動として、動詞の項目で挙げている辞書もある。しかし、*Stilwörterbuch* では、例 (4) を *adjektivisches Partizip* としている。また、*bedeckt* を形容詞として記載している独和辞書も多く、本論文では、*bedeckt* などは、過去分詞から派生した形容詞として扱っている。
- 5) これ以外に、付加語として用いられている例が 1 例ある。しかし、形容詞が付加語として用いられている場合、[前置詞格目的語—形容詞] の語順をとるので、付加語形容詞は、*bereit* 以外の形容詞も含め、調査の対象外とする。

- 6) 表中の「前目」は前置詞格目的語、「形」は形容詞、「主述」は主語の述語内容語、「目述」は目的語の述語内容語を表す。また、「他」は動詞が記載されていないため、統語機能が不明なものおよび副詞的規定語である。%は、小数点以下第2位を四捨五入で算出している。なお、ähnlich 〈in + Dat.〉、befähigt 〈für + Akk. / zu + Dat.〉、eingeschworen 〈auf + Akk.〉、eitel 〈auf + Akk.〉、eklig 〈in + Dat.〉、entscheidend 〈für + Akk.〉については、今回、用例が得られなかったため、表には記載していない。
- 7) ここで言う平均音節数は、音節数×件数÷全件数で、小数点以下第2位を四捨五入で算出している。[前置詞格目的語—形容詞]の語順をとる傾向が100%であった形容詞の場合、(4音節×3件+3音節×13件+2音節×6件)÷22件である。
- 8) bang(e)は、1.5音節とする。
- 9) 過去分詞を連想させる語形とは、例えば、befangenの場合、befangenという動詞は、標準的な現代ドイツ語にはないが、動詞fangenの過去分詞gefangenからbefangenが連想できる語形を指す。

### 一次文献

- Der kleine Wahrig. Wörterbuch der deutschen Sprache (2007). Hrsg. von Renate Wahrig-Burfeind. Gütersloh, München.
- Duden. Deutsch als Fremdsprache Standardwörterbuch (2010). Hrsg. von der Dudenredaktion. Mannheim, Leipzig, Wien, Zürich.
- Dudenband 2.—Das Stilwörterbuch (2010). Hrsg. von der Dudenredaktion. Mannheim, Leipzig, Wien, Zürich.
- Langenscheidt. Großwörterbuch Deutsch als Fremdsprache (2010). Hrsg. von Dieter Götz, Günther Haensch, Hans Wellmann. Berlin, München, Wien, Zürich, New York.

### 二次文献

- Dudenband 4.—Die Grammatik (1984). Hrsg. von Günther Drosdowski. 4. Aufl. Mannheim.
- Dudenband 4.—Die Grammatik (2005). Hrsg. von der Dudenredaktion. 7. Aufl. Mannheim, Leipzig, Wien, Zürich.
- Dudenband 4.—Die Grammatik (2009). Hrsg. von der Dudenredaktion. 8. Aufl. Mannheim, Zürich.
- Dürscheid, Christa (2000): Syntax. Grundlagen und Theorien. Wiesbaden.

- Eisenberg, Peter (2004): Grundriß der deutschen Grammatik. Band. 2: Satz. Stuttgart, Weimar.
- Engel, Ulrich (1988): Deutsche Grammatik. Heidelberg.
- (1994): Syntax der deutschen Gegenwartssprache. 3. Aufl. Berlin.
- Engel, Ulrich / Helmut Schumacher (1978): Kleines Valenzlexikon deutscher Verben. 2. Aufl. Tübingen.
- Engel, Ulrich / Meliss, Meike (Hrsg.) (2004): Dependenz, Valenz und Wortstellung. München.
- Eroms, Hans-Werner (2000): Syntax der deutschen Grammatik. Berlin, New York.
- Flämig, Walter (1991): Grammatik des Deutschen. Einführung in Struktur- und Wirkungszusammenhänge. Berlin.
- Flämig, Walter et al. (1981): Grundzüge einer deutschen Grammatik. Berlin.
- 浜崎 長寿 / 橋本 政義 (2004): 名詞・代名詞・形容詞. 大学書林.
- Helbig, Gerhard / Joachim Buscha (2001): Deutsche Grammatik. Ein Handbuch für den Ausländerunterricht. Berlin, München.
- Helbig, Gerhard / Wolfgang Schenkel (1975): Wörterbuch zur Valenz und Distribution deutscher Verben. Leipzig.
- Hentschel, Elke / Harald Weydt (1994): Handbuch der deutschen Grammatik. 2. Aufl. Berlin, New York.
- (2003): Handbuch der deutschen Grammatik. 3. Aufl. Berlin, New York.
- 人見 明宏 (2007): 依存関係文法における相関詞 es + 文肢文について. In: 愛知県立大学外国語学部紀要第39号 (言語・文学編)、S.325-341.
- (2008): 「代名詞的副詞」の統語範疇について. In: 愛知県立大学外国語学部紀要第40号 (言語・文学編)、S.303-322.
- (2009): da(r) + 前置詞と文肢文との「相関」について. In: 愛知県立大学外国語学部紀要第41号 (言語・文学編)、S.195-212.
- (2010): 形容詞 zufrieden、stolz と前置詞格目的語の語順について. In: 愛知県立大学外国語学部紀要第42号 (言語・文学編)、S.209-225.
- (2012): 述語内容語的付加語を伴った文の統語構造について. In: 愛知県立大学外国語学部紀要第44号 (言語・文学編)、S.185-206.
- (2014): 述語形容詞を伴った結果構文の統語構造について. In: 愛知県立大学外国語学部紀要第46号 (言語・文学編)、S.285-305.
- (2015): 形容詞と前置詞格目的語の基本語順について. In: 愛知県立大学外国語学部紀要第47号 (言語・文学編)、S.85-107.
- (2016): 形容詞と前置詞格目的語の語順について—文学作品における事例の分析を基に—. In: 愛知県立大学外国語学部紀要第48号 (言語・文学編)、S.167-188.

- (2017) : 形容詞と前置詞格目的語の語順について—文学作品における  
実例の分析を基に (2) 一. In : 愛知県立大学大学院国際文化研究科論集第18  
号、S.1-20.
- 川島 淳夫 (編) (1994) : ドイツ言語学辞典. 紀伊國屋書店.
- Lee, Sun-Muk (1994): Untersuchung zur Valenz es Adjektivs in der deutschen  
Gegenwartssprache. Die morphosyntaktische und logisch-semantische Bestimmung  
der Ergänzungen zum Adjektiv. Frankfurt am Main, Berlin, Bern, New York, Paris,  
Wien.
- 中山 豊 (2011) : 中級ドイツ文法—基礎から応用まで—. 白水社.
- Pittner, Karin / Judith Berman (2004): Deutsche Syntax. Ein Arbeitsbuch. Tübingen.
- Schumacher, Helmut / Jacqueline Kubczak / Renate Schmidt / Vera de Ruiter (2004):  
VALBU — Valenzwörterbuch der deutschen Verben. Tübingen.
- Sommerfeldt, Karl-Ernst / Herbert Schreiber (1983): Wörterbuch zur Valenz und  
Distribution deutscher Adjektive. Leipzig.
- Stănescu, Speranța (Hrsg.) (2004): Die Valenztheorie. Bestandsaufnahme und  
Perspektiven. Frankfurt am Main.
- Tarvainen, Kalevi (2000): Einführung in die Dependenzgrammatik. Tübingen.
- Tesnière, Lucien (1980): Grundzüge der strukturalen Syntax. Hrsg. u. übers. von Ulrich  
Engel. Stuttgart.
- Weber, Heinz Josef (1992): Dependenzgrammatik. Ein Arbeitsbuch. Tübingen.
- Wöllstein-Leisten, Angelika / Axel Heilmann / Peter Stepan / Sten Vikner (1997):  
Deutsche Satzstruktur. Grundlagen der syntaktischen Analyse. Tübingen.
- 在間 進 (1992) : 詳解ドイツ語文法. 大修館書店.
- Zifonun, Gisela / Ludger Hoffmann / Bruno Strecker et al. (1997): Grammatik der  
deutschen Sprache. 3 Bde. Berlin, New York.